

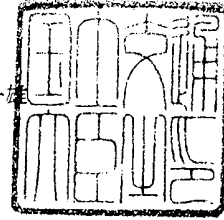


認定書

国住指第1390号
平成 16年 10月 6日

エイム株式会社
代表取締役 小野 秀男 様

国土交通大臣 北側 一



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法施行令第46条第4項表1の(八)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

FRM-0083

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

壁の上下に開口を有する厚9mmミディアムデンシティファイバーボード張り/ねじKK50/ねじピッチ@12.5cm/直張り仕様/壁幅1mの木造軸組耐力壁

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添の通り

3.1の倍率を有する軸組と同等以上の耐力を有する軸組

建築基準法施行令第46条第4項表1に掲げる壁若しくは筋かいを併用する場合は、5を限度としてそれぞれの倍率を加算できるものとする。

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

構造の概要

1. 面材等の概要

耐力壁に用いる面材等の概要は以下のとおりである。

(1) 面材の名称

ミディアムデンシティファイバーボード（以下「MDF」という。）

(2) 面材の構成材料

MDFの構成材料は表1に示す。

表1 構成材料

構成材料	構成割合 (重量%)
木材繊維	85～88
接着剤（メラミン・ユリア樹脂系）	15～12

(3) 面材の寸法及び許容差

MDFの寸法、許容差は表2に示す。

表2 面材の寸法、許容差

厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	許容差(mm)	
			厚さ	幅、長さ
9.0	1000	1000	±0.3	±3.0
	910	600		

(4) 面材の品質

MDFは、表3の性能を有していること。

表3 MDFの性能値

項目	単位	性能値	準用規格
密度	g/cm ³	0.71以上	JISA5905
含水率	%	5以上13以下	
曲げ強さ	N/mm ²	30以上	
湿潤時曲げ強さ	N/mm ²	15以上	
曲げヤング係数	N/mm ²	2500以上	
はく離強さ	N/mm ²	0.5以上	
木ねじ保持力	N	500以上	
吸水厚さ膨張率	%	12以上	

(5) 面材の接着剤の品質

MDFの接着剤の品質は、JISA5905(2003)繊維板の接着区分のMタイプ又はPタイプとする。

(6) 面材の取り付けに用いるねじ

1) ねじの種類

MDFの取り付けに用いるねじはKK50で、その詳細は表4及び図1に示す。

表4 ねじKK50の詳細 (mm)

記号	ねじKK50
材質	JISG3539 冷間圧造用炭素鋼線 SWCH22A
表面処理	JISH8625 クロメートメッキ
寸法 (mm)	頭径 10±0.2 呼び径 5.8±0.1 谷径 4.00±0.05 全長 50±1.2
その他	特殊ノコ刃付き 頭口穴付き

2) ねじ打ち位置のマーキング

MDFの外周部には、ねじ打ち位置をマーキングする。マーキングの方法は、図2に示すようにねじ間隔12.5cmを面材に印刷する。

(7) 横棧

横棧には構造用単板積層材（以下LVLという。）を用いる。その仕様は表5に示す。

表5 横棧の仕様

項目	仕様
種類	構造用単板積層材（JAS認定品、昭和63年農林水産省告示第1443号）
単板の樹種	ラジアータパイン、ダフリカラマツ
接着剤	アルカリフェノール樹脂接着剤
寸法(mm)	厚30×幅90×長895
密度 (g/cm ³)	0.4～0.7

(8) 三角金物

三角金物は横棧を柱に固定するもので2個1組で使用する。その詳細は表6及び図3に示す。三角金物の固定には、ねじKK50を用いる。

表6 三角金物の仕様

項目	仕様
名称	三角金物
材質	JISG3131 熱間圧延軟鋼及び鋼帯 SPHC
概要寸法(mm)	幅30×高150×長150 板厚4.5
表面処理	ダクタイル処理
接合具	ねじKK50

(9) 引き寄せ金物

引き寄せ金物は、耐力壁の脚部を固定するために用いる。その詳細は表7及

び図 4 に示す。また、取り付けに用いるラグスクリューの詳細を表 8 及び図 5 に示す。

表 7 引き寄せ金物の仕様

項目	仕様
名称	引き寄せ金物
材質	JISG3101 一般構造用圧延鋼材 SS400
概要寸法(mm)	幅 44×長 525 板厚 6.0
表面処理	JISH8625 クロメートメッキ処理
接合具	ステンレスラグスクリューφ12 又は鋼製ラグスクリューφ12
接合具数	5本
引き寄せボルト	M16ボルト

表 8 ラグスクリューの仕様

項目	仕様	
名称	ステンレスラグスクリュー	鋼製ラグスクリュー
材質	JISG4305 冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯 SUS304	JISG3505 軟鋼線材 SWRM10
寸法(mm)	外径 11.5 呼び径 φ12 全長 100	
表面処理	なし	JISH8610 電気亜鉛メッキ 2種2級

2. 耐力壁の適用範囲

(1) 壁の上下に開口を有する耐力壁の適用範囲は、木造軸組工法住宅とする。軸組の仕様は、建築基準法施行令第 40 条～第 49 条（ただし、第 48 条を除く。）とする。

(2) 本耐力壁を連続して設ける場合は、2 枚以下とする。

(3) 本耐力壁を平面隅角部に設ける場合には、一方向だけとし、他方向には必ず開口部のない耐力壁を設けるものとする。

3. 耐力壁の施工仕様の概要

(1) 軸組材

① 柱、土台、梁、胴差及び桁の断面寸法は 105×105mm 以上とする。

② 柱の間隔は、1m、0.91m とする。

(2) 横棧

① 横棧は面材の上下部をとめつける受け材で、壁の上下、面材継手部に 4 本配置する。

②床側の横棧は、土台上端から150mm以内の位置に横棧の下端を取り付ける。

③天井側の横棧は、梁、桁等の下端から200mm以内の位置に横棧の上端を取り付ける。

④横棧は断面寸法30×90mmのLVLとする。

⑤横棧は三角金物をねじKK50を用いて柱及び横棧に各々4本ずつ打ち固定する。

(3) 面材の取り付け方法

①面材は幅1m以下とし、軸組の高さ方向に3枚張りとする。

②面材は、柱及び横棧に直張りとする。

③面材は軸組高さの80%以上に張るものとする。

④面材の取り付けにはねじKK50を用い、ねじ打ち間隔は@12.5cmとする。

⑤ねじの縁端距離は、20mm以上とする。

(4) 開口の大きさ

壁の上下の開口高さは、天井側の開口高さ200mm以下、床板側の開口高さ150mm以下とする。

(5) 耐力壁の固定

耐力壁は引き寄せ金物を用いて基礎に直接緊結する又は土台を介して基礎に緊結する。

(6) 施工図は、図6に示す。

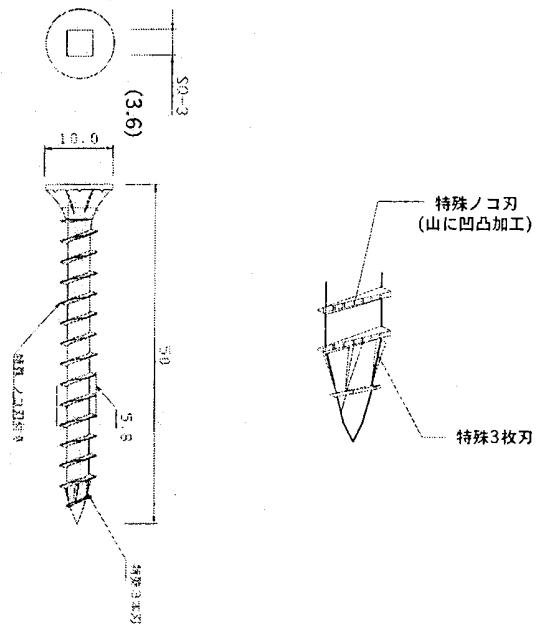


図1 ねじKK50の詳細図 (mm)

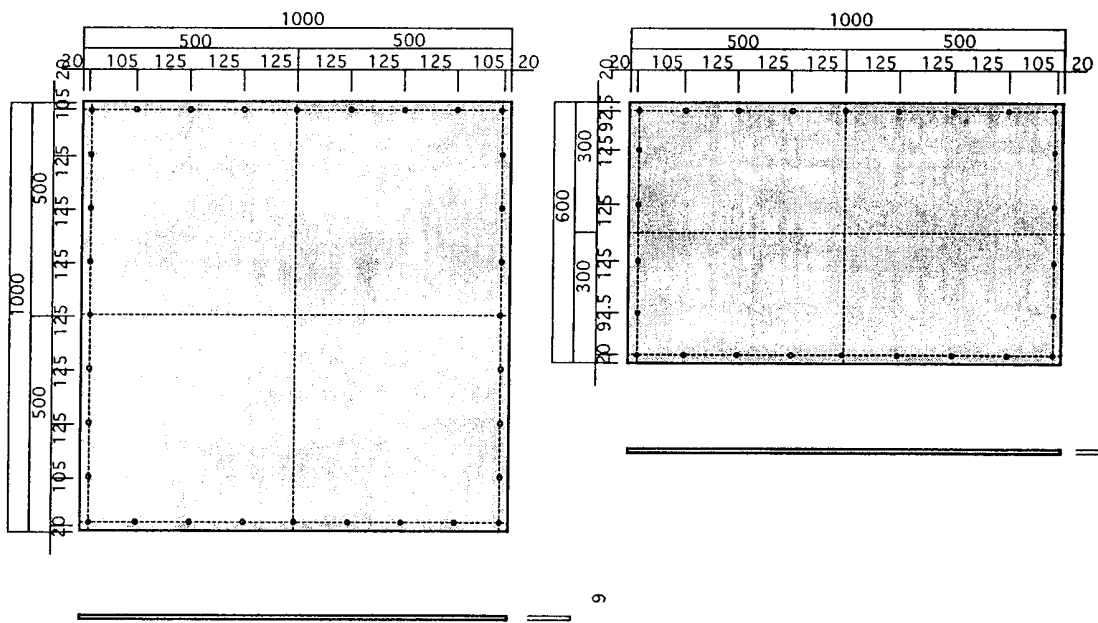


図2 ねじ打ち位置の印刷仕様 (mm)

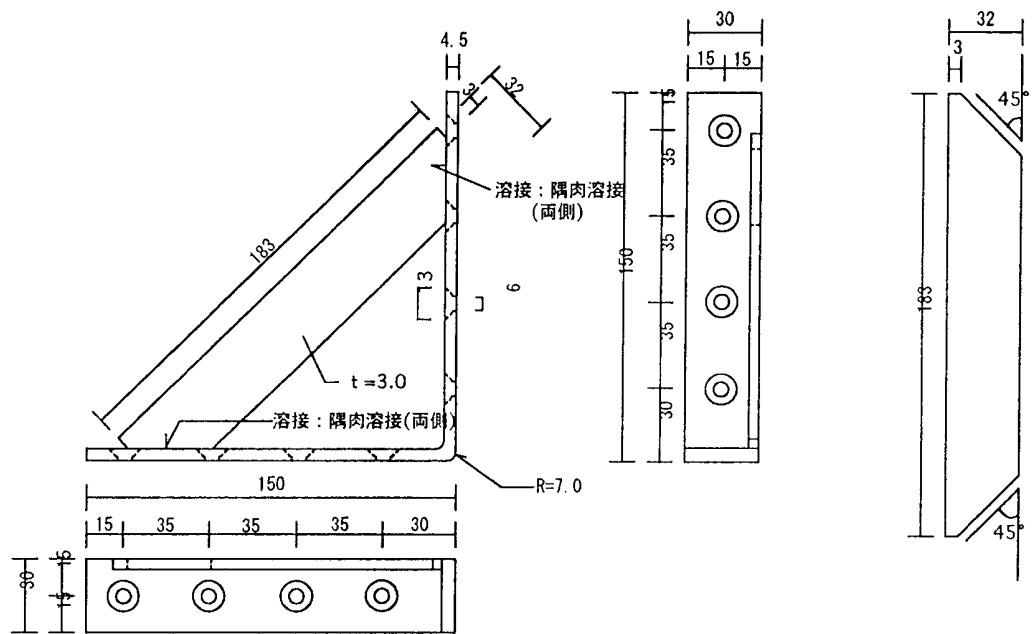


図3 三角金物の詳細図 (mm)

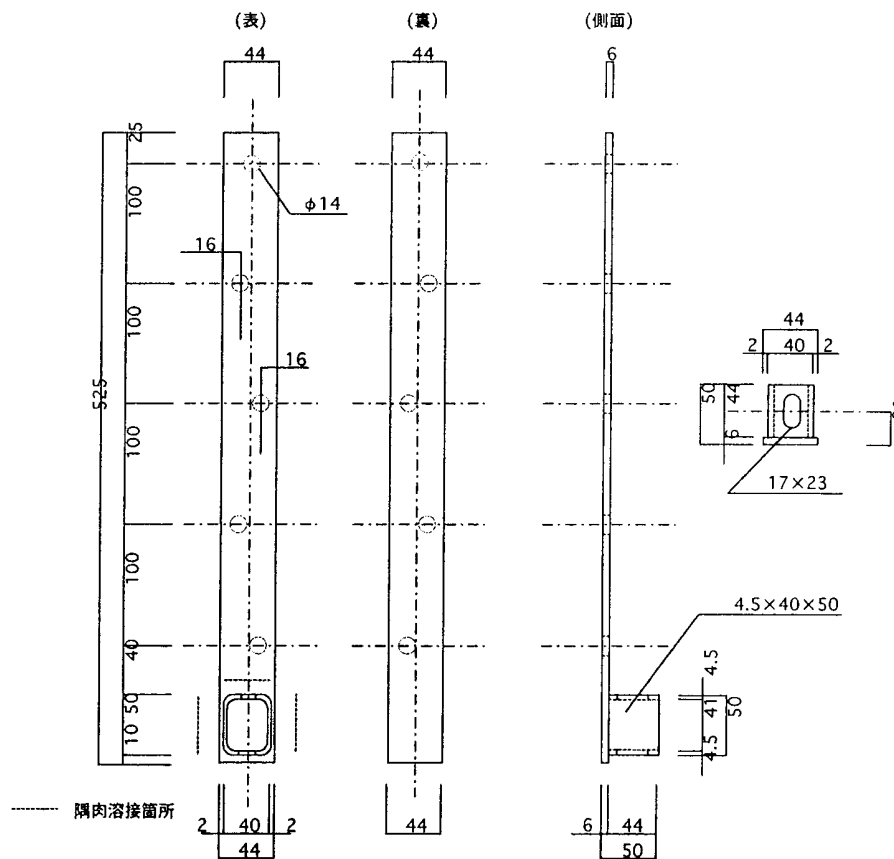


図4 引き寄せ金物の詳細図 (mm)

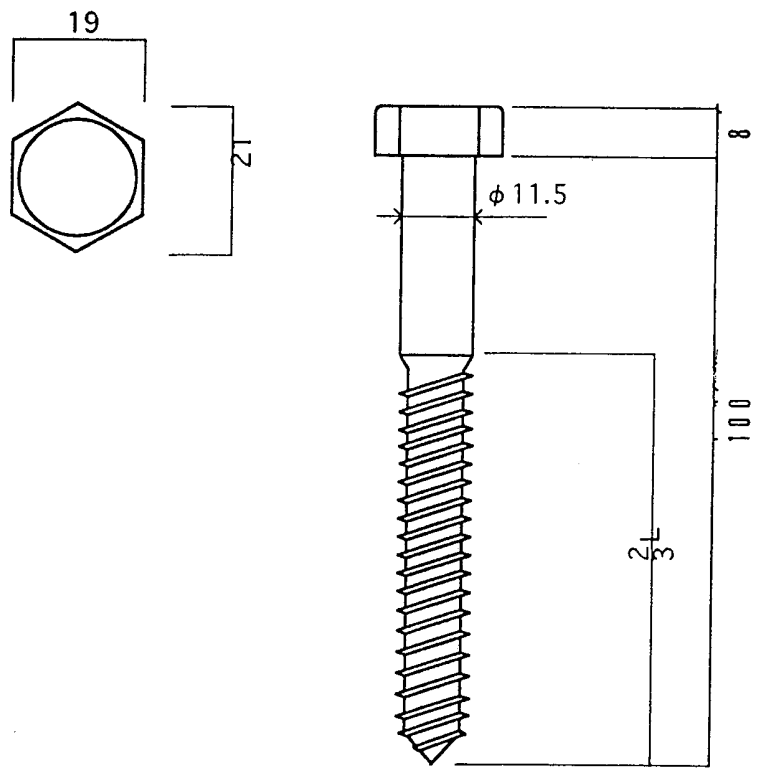
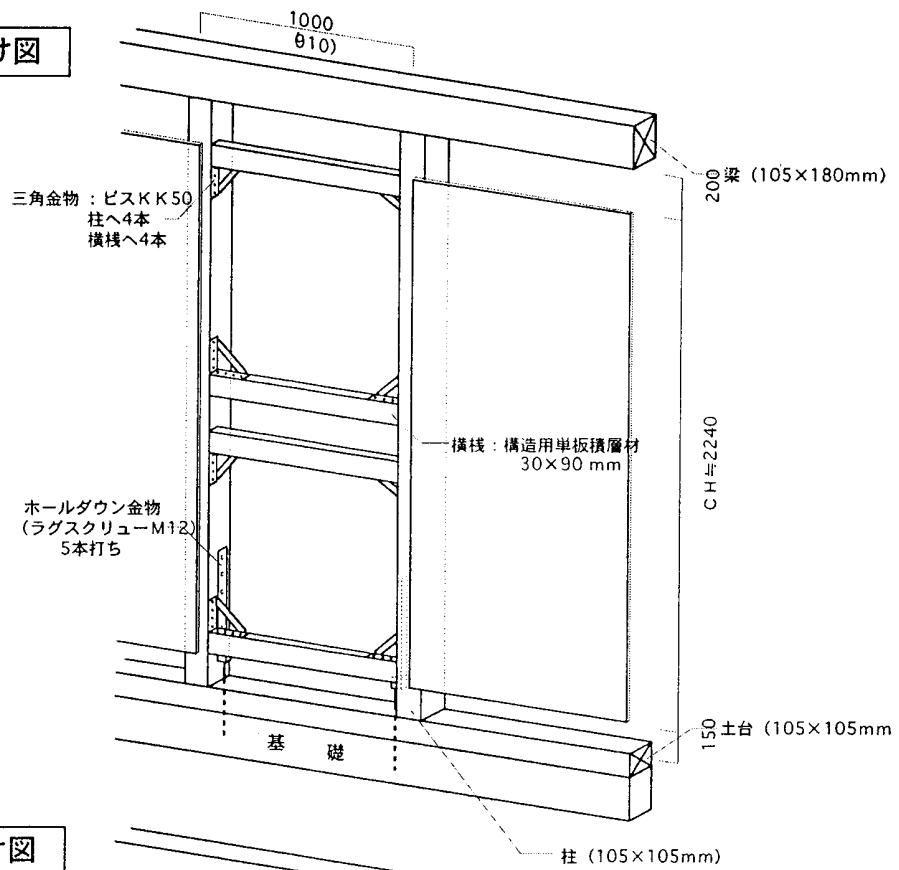


図5 ラグスクリューφ12の詳細図 (mm)

横棧取付け図



面材張付け図

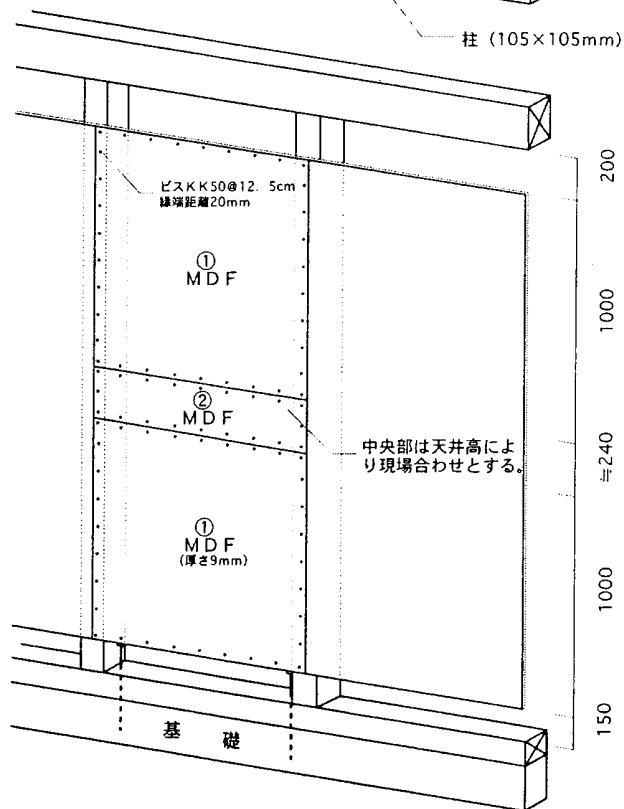


図6 施工詳細図 (mm)